

---

# 星空の下で

悲劇のM

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

星空の下で

### 【コード】

N6974D

### 【作者名】

悲劇のM

### 【あらすじ】

星を見るのが好きな少年と少女の物語・・・

(前書き)

初投稿初執筆です。至らぬ点が多々あるかと思しますので、ご指導  
よろしくお願いします

お前がいなくなつてどれくらいになるかな……  
俺が中3の頃にお前が東京に行つて、俺が今年で高2だから、もう  
2年くらい経つか。

2年前、俺は近所の土手で星を見ていた。  
深夜の3時、誰もいるはずのない所だった。  
お前は初めて会う俺に小さな声で言った。  
「あれ？こんな所でなにしてんの？」  
それが出会いだつた。

その時はまさか、同じ学校の同じクラスとは、全然思わなかつた。  
学校で出会つて吃驚した。  
それから、俺達は毎日同じ時間にあの場所で二人で星を見上げてい  
た。  
二人とも、午前の授業は全滅だつた。  
なのに、いつも俺だけ分厚い教科書で叩かれた……

出会つて4ヶ月も経たない頃。  
中学校最後の夏休み、いつもと同じように二人で星を見ていたら、  
急にお前が言った。

「あたしさ、明日から東京に行くの」  
あの時は軽く驚いたよ。  
けど、俺の馬鹿な頭が勝手に違う解釈して  
「おう、楽しんでこいよ。お土産忘れんなよ」  
とか言つちまつた……

100%旅行にでも行くのかと思ってた。

「うん、楽しんでくるね」

そんな事言うから俺の思い込みは120%に達した。

それから、後の夏休みは、一人で星を見た。

星を見るのは1人より2人の方が楽しいって知った。

そして新学期。

先生からお前が東京に転校したって聞かされて、その時俺を襲った後悔。

あの時俺が気付いてたら、もっと気の利いた事言ったのに。

一人で見る星は、全然つまらなかった。

でも、俺は毎日あの場所に行った。

ここで待ってたら、またお前が「なにしてんの？」って俺に声を掛けてくれる気がしたから。

けど、現実はそのんじゃなかった。

時間だけが過ぎていった。

学校から帰ってきて飯食って家族が寝たらあの場所に行くっていう単調な日々を過ごして今に至る。

今日も例外無くあの場所に行っていた。

数時間ほどして、眠気を感じた俺は腕時計を見た。

もう3時を指している。

「ザッ」

ふと足音が聞こえた。

半秒後、聞き覚えのある声が出た。

「あれ？なにしてんの？」

どうやら、一人で星を見るのは今日までのようだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6974d/>

---

星空の下で

2010年12月22日18時51分発行